（２）－２箕輪町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案）に関するパブリックコメント及び町の考え方、町環境審議会意見等

NO	該当ページ	意見要旨	意見内容に対する町の考え方	審議会意見等
1	全体	文字が赤くなっている理由は何か。環境基本計画同様に改定箇所を示すのか	強調箇所等を赤字にしましたが、環境基本計画とは異なり改定箇所を表しているものではないため、本文に関しては黒字にします	了承
2		「CO２」ではなく「CO_2」に統一してほしい	CO_2に統一します	了承
3	22P 4行目	誤字（閉じ括弧が誤り）		
		「環境に配慮した新製品・サービスの開発・販売｝10.8%、	ご指摘のとおりであり修正します	了承
4	29P	２.温室効果ガスの削減目標		
4-1		2030 年度の温室効果ガス実質排出量 ６０％削減（2013 年度）には、すばらしい目標値に敬意を表します	ご評価いただきありがとうございます	了承
4-2		【地球温暖化対策における将来像】 『未来に誇れるゼロカーボンの町 みのわ』では、住んでみたいまちだとイメージできます	ご評価いただきありがとうございます	了承
5	29P	２.温室効果ガスの削減目標		
		「2030 年度の温室効果ガス実質排出量60%削減(2013 年度比）」という高い削減目標を掲げたことには、たいへん勇気付けられます。 ただ、その理由について、「気候非常事態宣言－2050 ゼロカーボンへの 決意－」と「長野県ゼロカーボン戦略」に触れているだけで、長野県全体の気候危機認識と削減目標に合わせて60%削減を決めたようにも解することができます。 「1.5度目標」実現のための「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」までの排出削減目標の設定には、排出削減経路とカーボンバジェット（炭素予算）を考慮することが必要です。政府の「46%削減目標」の説明によく使われる「2050年ゼロカーボンまでの直線的な削減」では、2050年より前に日本の人口比に照らした「1.5度のカーボンバジェット」を超えてしまい、一時的にせよ「1.5度越え」になってしまう。「2030年度60%削減」は、オーバーシュートなしの1.5度気候目標と整合した削減目標として説明することが妥当	本計画素案は、環境省が地方自治法に基づいて技術的助言として策定している「区域施策編　策定・実施マニュアル」を基本ベースにし、削減目標については長野県ゼロカーボン戦略を基本に、町地球温暖化対策特別委員会で協議いただき計画に盛り込みました。 ご意見のカーボンバジェットについては、国際的には重要な指標として考えられていますが、国の計画や長野県ゼロカーボン戦略の中に記述がなかったため記載しなかったものです。 しかしながらご指摘のとおりカーボンバジェットは重要な考え方ですので、審議会で協議いただきます	資料２－２の修正案で了承 （カーボンバジェット（炭素予算）を意識する旨、計画書へ加筆することで了承）

NO	該当ページ	意見要旨	意見内容に対する町の考え方	審議会意見等
6	31Ｐ	（１）交通の2030（令和１２）年目標		
6-1		1,000／9,642台（2021年３月末町内乗用車（軽以外）全保有台数※）の「軽」は何か。軽トラックか、軽自動車も含むのか	軽トラックも含む軽三輪・軽四輪です	了承
6-2		町内における軽トラック、軽乗用車の数は多いと推測でき、除外する利用が知りたい	ご推察のとおりであり、軽自動車まで含めると多くなることから除外したものですが、県ゼロカーボン戦略と同様に軽自動車も含める方向で審議会で協議いただきます	資料２－３の修正案で了承 （県ゼロカーボン戦略に準拠して軽自動車（軽貨物車は除く）も含めることで了承）
7	42Ｐ	６.促進区域設定を想定する施設及び場所		
		萱野高原における山荘等の建造物は含まれないのか	施設の老朽化に伴い、今年度からかやの山荘は宿泊を中止し、また併設する展望棟の一部は立ち入り禁止にしたことから除外したものであり、今後施設整備等がされる状況になりましたらその時点で追加を検討します	了承
8	45P	推進体制について　県民会議の資料にもあるように、進捗状況など共有できるので、地元の箕輪町の会議も常設して情報公開をよろしくお願いいたします （長野県ゼロカーボン実現県民会議）	45Pにありますように、様々なステークホルダーと連携・協力していくことが重要であると考えており、早急に推進体制を構築したいと思います。また取り組み状況等の情報については、ホームページなどを通じて公表していきたいと思います	・ステークホルダーについては、町のいろいろな委員会、団体を調べ、また区を巻き込んで協力を得られるようにしたらどうか。また金融機関に入ってもらい仲間を増やしていく必要があるのではないか。運輸業界も重要 ・いかに協力体制をつくり実際にやっていくかが大事ではないか。町だけでも、一企業でもできないので、皆で協力してやっていくことが大事である。国、県にも働きかけて大きな活動にしないと目標を達成できないと考える